

‘-ㄷ까 보다’の意味的特徴に関する一考察

平 香織
神田外語大学

1. はじめに

朝鮮語には‘-ㄴ가 싶다’, ‘-ㄷ까 보다’, ‘-ㄷ까 하다’, ‘-려나 싶다’のように疑問形語尾に補助用言が結合して構成される分析的形式が存在する。本研究では、これらのうち「意図」と「推測」を表すとされてきた-ㄷ까 보다を取りあげる。-ㄷ까 보다に関するこれまでの研究では、上記にあげた形式との比較によって違いが指摘されており、-ㄷ까 보다の意味を単独で考察したものはあまり見られない。本研究では先行研究を再考し、-ㄷ까 보다で表される意図がどのような場合に使用されるかを明らかにする。また、推測を表すとされる-ㄷ까 보다については、これまであまり注目されてこなかった文末に現れる例に注目し、文中・文末に共通した特徴を探ることを目的とする。

2. 先行研究

-ㄷ까 보다は、終結語尾‘-ㄷ까’と補助用言‘보다’から構成される。これまでの研究を見ると、終結語尾と補助用言をとる構成を SEA(sentence ending auxiliary)構文と名付け、その特性を論じた研究(엄정호 1990)や終結語尾と補助用言という同様の構成を取る形式と比較し、それぞれの形式の意味の違いを論じた研究(호광수 2003, 변정민 2008), 싶다構文, 하다構文は보다構文とは異なる構文であることを主張した研究(박재연 1999)がある。さらに、보다構文を歴史的な観点から考察した研究(정선혜 2010)や-ㄷ까 보다の発達を方言から考察した研究(고광모 2015)もある。

本節では、これまでの研究で-ㄷ까 보다の意味がどのように特徴づけられてきたかを概観する(例文の下線と日本語訳は筆者による)。

(1) a. 아무래도 마음이 놓이질 않아서 내가 가 볼까 봐.

「やっぱり安心できないから、わたしが行ってみようかと思う。」

b. 그런 축과 얼려서 술을 배우고 돈을 쓰러 다닐까 보아서, 걱정을 하는 것이었다.

「そういう類と交わって酒を覚え、お金を使うために出かけるかと思って心配をするのだった。」

c. 날이 무더운 것이 아마도 비가 좀 올가(까)ㄴ 보다.

「天氣が蒸し暑いのは多分雨が少し降るのだろう。」

호광수(2003)は-ㄷ가 보다는意味を「ある程度ためらいがある弱い意志(例文 1a)」と「心配を伴う推測(例文 1b)」とした。「心配を伴う推測」は、語末形態が‘-다’で終わるよりも(1b)의 다닐까 보아서のように-아야-아서の形で現れ, -ㄷ가 보다가含まれる先行節で推測(心配)が成立し, これに対する結果的行為が後行節に現れるとした。そして(1c)のように終結語尾に‘-다’をとった推測は不自然であり, この場合は-ㄷ가ではなく-려나を使用するのが自然であろうとしている。

外国人のための文法書である국립국어원(2005)では-ㄷ가 보다는について「まだ確実に決めたわけではないが, その行動をする気持ちや考えがあることを表す(例文 2a)」, 「(主に, -을까 봐の形で用いられて)ある事実や状況から, そのようだろうと推測する意味を表す(例文 2b,c)」と記述している。

(2) a. 내일은 오래간만에 집에서 꼭 쉴까 봐요.

「明日は久しぶりに家でゆっくり休もうかと思えます。」

b. 그 말이 거짓말일까 봐 고민했어요.

「そのことばが嘘かと思って悩みました。」

c. 내일은 비가 많이 올까 봐요. (以上, 국립국어원 2005:780)

「明日は雨がたくさん降るようです。」

국립국어원(2005)が他の研究と異なるのは, 推測を表す形式について文中だけでなく文末で使用される例(2c)をあげている点である。

변정민(2008)は-ㄷ가 보다는意味として「ある程度, 気持ちを決めている意図」と「推測」をあげている。

(3) a. 내일 떠날까? 「明日出発しようか。」

b. 나는 내일 떠날까 싶다(보다). 「わたしは明日出発しようかと思う。」

c. 내일 떠난다. 「明日出発する。」

(4) a. 이모는 손님이 올까 봐(서) 방을 치워두었다.

「おばは, お客さんが来るかと思い, 部屋を片付けておいた」

b. 슌미는 그가 다시 돌아올까 봐(서) 열쇠를 바꾸지 않았다.

「스님미は彼がまた戻ってくると思い, 鍵を変えなかった。」

(以上, 변정민 2008:243-244)

「ある程度, 気持ちを決めている意図」とは(3)で見るように, ‘-ㄷ가?’ や‘-ㄷ다’で表される意図・意志との比較で述べられたものである。(3a)は出発するかどうか, ためらいがあることを表し, -ㄷ가 보다는を使った(3b)は,

‘-ㄴ다’を使った(3c)よりも弱くはあるが、気持ちの決定を下した状態として解釈されるとしている。(4)の推測を表す-ㄴ까 보다については호광수(2003)と同様に、先行節に推測が現れ、これに対する結果的行為が後行節に現れること、‘-ㄴ까 봐/봐서’という固定化した形で現れることを指摘している。しかし、その意味について、-ㄴ까 보다が必ずしも心配や憂慮を含んだ推測のみを表すものではないとした。(4)も含意的な解釈として心配や憂慮の意味を持っているということは可能であるが、後行節の意味を-ㄴ까 보다に含めるよりも疑問形語尾と보-の結合から生成される意味に焦点を置くべきだとしている。

以上の호광수(2003), 국립국어원(2005), 변정민(2008)は-ㄴ까 보다는意味として「意図・意志」と「推測」の2つをあげているが、次に見る고광모(2015)は-ㄴ까 보다는意味・用法を4つに分類している。

(5) 이제 철수가 갔을까 보다.

「もうチョルスは帰ったかと思う。」

(6) a. 내가 너한테 또 속을까 보냐?

「わたしがあなたに、まただまされると思うか。」

b. 제가 그까짓 것도 모를까 봅니까?

「私がそれくらいのことも分からないと思いますか。」

(7) a. 어머님은 비 올까 봐(*보셔) 장독 뚜껑을 닫으셨다.

「お母様は雨が降るかと思い、甕の蓋をお閉めになった。」

b. 영이는 남편 생일을 잊어버릴까 봐서 달력에 표시해 두었다.

「ヨンイは夫の誕生日を忘れるかと思い、カレンダーに記しておいた。」

(8) a. 한 대 콧 쥐어박아 버릴까 보다.

「一発小突いてやろうかと思う。」

b. 저는 깨끗이 포기할까 봅니다. (以上, 고광모 2015:20-21)

「私はきれいにあきらめようかと思います。」

(5)は推測を表す例、(6)は修辞疑問文の例、(7)は心配を表す例、(8)は意図を表す例であり、(5)の推測を表す-ㄴ까 보다について、その存在自体が疑わしいほど使用されないと指摘している。(5)-(8)の分類のうち、疑問形の例²⁾をあげている点と「推測」と「心配」を分けている点が他の研究と異なる。

以上、先行研究を概観してきたが、まだ十分に明らかにされていない点や異なる指摘がなされている点を確認できる。例えば、-ㄴ까 보다が確実な意図を表すわけではないという共通した指摘がなされているが、確実でない意図であれば-ㄴ까 보다が無条件に使用できるのだろうか。また、推測を表す場合、終結語尾に‘-다’をとった形が現れるのは不自然であるという指摘があった(例文 1c)。しかし、そのような指摘をする論考では、‘-ㄴ까 봐’

が文中に生じた例だけをあげており、文末でどのような形式が実現するのかについての言及がない。一方で、文末に‘-ㄴ까 ㅂㅅ요’が生起する例(2c)も見られるが、単文で示してあり、どのような推測を表すのか具体的な説明がない。そして、推測のみを表す場合にはほとんど使用しないとしてあげられた例(5)を見ると、終結語尾に‘-다’をとっており、‘-다’が共起しているために不自然に感じられるのではないかという疑問が残る。さらに推測については心配を伴うとする立場と推測と心配を分ける立場があり、疑問形についてはあまり取りあげられておらず、修辞疑問文としての使用だけが指摘されている。本稿では、以上にあげた点を明らかにするために、次の4点について考察する。なお、今回は-ㄴ까 ㅂㅅ/-ㄴ까 ㅂㅅ요は扱わなかった。

- 1) -ㄴ까 ㅂㅅで表される意図とはどのような意図なのか
- 2) 推測を表す形式は、‘-ㄴ까 ㅂ’で固定化しているのか
- 3) -ㄴ까 ㅂㅅで表される推測は常に心配を表すのか、単に推測を表す場合は使用されないのか
- 4) -ㄴ까 ㅂㅅの疑問形はすべて修辞疑問文として用いられるのか

3. -ㄴ까 ㅂㅅの意味的特徴

本節では、用例を検討しながら2節であげた疑問を明らかにしていく。データは、21세기 세종계획 말뭉치(CD-ROM版)を用い、文語・口語ファイルから-ㄴ까 ㅂㅅの用例を569例抽出した。-ㄴ까 ㅂㅅの実現形式を考察するために、文末で使用された例(141例)と文中で使用された例(428例)に分け、文末で使用された例をさらに叙述形(99例)と疑問形(42例)に分けた。以下では叙述形(3.1.)と疑問形(3.2.)に分けて考察していく。

3.1. 叙述形の-ㄴ까 ㅂㅅ

叙述形の-ㄴ까 ㅂㅅは2節で見たように「意図・意志」、「推測」、「心配」という意味が指摘されており、このうち「推測」と「心配」はその意味を分けるかどうかで見解が分かっているが、ここではこの2つを別に扱うことはせず「推測」として括り、例文を検討していく中で、「心配」という意味を別に立てるべきかを判断する。また、「意図」なのか「意志」なのかについても統一されていないが、本稿では-ㄴ까 ㅂㅅの性質上、「意図」を使用する³⁾。

3.1.1. 意図を表すとされる-ㄴ까 ㅂㅅ

-ㄴ까 ㅂㅅによって表される意図は「ある程度ためらいがある弱い意志」(호광수 2003)、「まだ確実に決めたわけではないが、その行動をする気持ちや考えがあることを表す」(국립국어원 2005)、「ある程度、気持ちを決めて

いる意図」(변정민 2008)と特徴づけられてきた。これらの特徴づけに共通するのは、確実ではないが、話し手が何かを行おうとする気持ちがあることを表すという点である。ここでは「話し手の不確定な意図を表す」と呼んでおく。では、話し手の不確定な意図を表す-ㄷ까 보다가具体的にどのような状況で使用されるのかを見ていこう。

(9) a. A: 한미전이 벌어지면 내 어머니의 조국, 내 사랑하는 당신의 조국 한국을 응원할까 봐...

「韓米戦が繰り広げられたら、わたしの母の祖国、わたしが愛するあなたの祖国である韓国を応援しようかと思う...」

B: 막상 시험이 벌어지면 그렇게는 안 될걸... (21 세종)

「いざ試合になったらそうはいかないと思うけど...」

b. "아주머니, 구두는 약칠을 해 두셔야 오래가지 않아요? 먼지 잘 털어서 번쩍번쩍 광이 나게 해 놓을게요." 주호가 이렇게 권하면, 대개 닻을 구두 없다고 하던 주부들이, "참 그렇긴 해. 낡은 거라도 닻아 들까 봐." 하며 신장에서 먼지가 보안 구두를 꺼내다 주었다. (21 세종)

「“おばさん、靴は薬剤を塗ってつや出しをしておくのと長持ちするじゃないですか。埃をきれいに落として、ぴかぴかつやが出るようにしておきますよ。” チュホがこう勧めると、だいたい磨く靴がないと言っていた主婦たちが、“それもそうだわ。古いものでも磨いておこうかしら”と言い、下駄箱から埃で白っぽくなった靴を差し出した。」

(9)は-ㄷ까 보다가半言形で現れ、それぞれ意志動詞である 응원하다, 닻아 두다と共起している。(9a)は韓国で生まれ、アメリカに養子に行ったAが韓国とアメリカの試合が行われる場合には韓国を応援しようかと思っていることを述べたものであり、(9b)はチュホの話聞いた主婦が、古い靴であっても磨いておこうかと思ったことを述べたものである。この-ㄷ까 보다가を、意図を表す-려고に置き換えてみれば⁴⁾、-ㄷ까 보다가不確定な意図を表すことは明らかである。

ここで「不確定な意図」とは何か、その意味について考えてみる。「確定はしていないが、ある行動をしようとする考えがある」とは、話し手がある行動を取る(あるいは、取らない)という考えに傾きつつあることを指すと考えられる。例えば、明日は日曜だが、仕事をしようかと思っている場合、その背景には「休む」というもう一つの選択肢が想定される。仲違いした友人と、もう会わないでおこうかと思っている場合には、それを選ぶ背景に「今後も会う」という選択肢が想定される。(9)の例を見ると、韓国を応援する

かアメリカを応援するか、靴を磨くか磨かないかという選択肢があり、話し手はどちらかをしようという考えに傾きつつある状況を述べている。では、選択肢が明示されていない例はどうだろうか。

- (10) a. 아무래도 자신이 없어요. 아이들한테 미안해서도 더 이상 버틸 수가 없어요. 아이들을 부잣집에 양자로 주어 버리고 어디로 나는 떠나갈까 봐요. (21 세종)

「どうしても自信がありません。子供たちにはすまないけれど、これ以上、耐えられません。子供たちをお金持ちの家に養子にやっ
てしまって、わたしはどこかに立ち去ろうかと思います。」

- b. A: ...너무 돈이 많이 들어. 난 빨리 가고 싶은데 애기 아빠는 열흘쯤 꼭 쉬었다 가자고 하네! 넌 며칠이나 있니?

「...あまりにもお金がたくさんかかるわ。わたしは早く帰りたいんだけど、主人は 10 日ぐらいゆっくり休んでいこうって言うの! あなたは何日ぐらいいるの?」

- B: 애기 아빠가 바쁜데 어디 회사를 비울 수 있니. 한 이틀쯤 있다 올라갈까 봐. 내 한 번 들리게. 저녁이라도 함께 하자.

「主人が忙しいのに会社を空けられないわ。2日ぐらいいて、戻ろうかと思う。わたしが一度立ち寄るわ。夕食でも一緒に食べよう。」

(21 세종)

- c. "여행이나 갈까 봐." 며칠 전 영우는 말했었다. (21 세종)

「旅行でも行こうかと思っている。」何日か前にヨンウは言った。」

(10)は選択肢が明示されていない例である。(10a)は略待上称形の例であり、二人の子供を抱えて生活していけるかどうか自信がないため、子供は養子に出して、自分はどこかに立ち去ろうと考えていることを述べている。この例では、今いる場所に留まるか、立ち去ろうかという選択が窺える。(10b)の場合、何日ぐらい滞在するのかという A の質問に対して、2日ぐらい滞在してから戻ろうかと思っていることを-ㄴ까 보다を使って述べている。この例は、家に戻るか戻らないかの選択ではなく、どのくらいの日数、滞在するかが選択となっている。そして(10c)は、話し手の中にあるいくつかの選択肢の中から旅行に行くことを選びつつあることを表している。「本を読む」、「友人と会う」、「一人で過ごす」など、話し手には様々な選択が可能であるが、旅行に行くことを選択しつつあることが読み取れる。次善の選択を表すとされる'-나/-이나'が共起していることも選択が関わっていることを表していると言えるだろう。

このように-ㄴ까 보다는話し手がある行動を選択しつつあることを表すのだが、何かを選択するためには思考が伴う。選択肢の中からある行動を選

びつつあるということは、それを考えている最中であることを示す。つまり、-ㄷ까 보다는、話し手がある行動を選びつつあることと同時に、それを思考中であることを述べる際に使用されると言うことができる。そのため、思考中であることを敢えて表す必要がない場合に-ㄷ까 보다는使用すると不自然な発話となる。

- (11) a. A: 철수가 다음 주에 영화 보러 가자는데 너도 같이 안 갈래?
「チョルスが来週、映画見に行こうって言うんだけど、あなたも一緒に行かない?」
B: ㄱ. ?갈까 봐. 「行こうかと思う。」
ㄴ. 나도 갈까? 「私も行こうかな。」
b. A: 우리 다음에 언제 만날까요?
「わたしたち、今度いつ会いましょうか。」
B: ㄱ. ?4 월에 만날까 봐요. 「4月に会おうかと 생각합니다。」
ㄴ. 4 월에 만날까요? / 4 월에 만나는 거 어때요?
「4月に会いましょうか。 / 4月に会うのはどうですか。」

- (12) a. A: 내년엔 영어권으로 유학 간다며? 어디로 갈지 정했어?
「来年、英語圏に留学に行くんだって?どこに行くか決めた?」
B: 영국으로 갈까 봐.
「イギリスに行こうかと思っている。」
b. A: X 신간 나온대. 「Xの新刊が出るんだって。」
B: 그 작가 작품이 그렇게 재미있다면? 나도 이번에 한번 읽어볼까 봐.
「その作家の作品ってすごく面白いんだって? わたしも今回、一度読んでみようかと思う。」

(11)は A の提案や質問に対し B が自分の意向を述べる場面である。例えば(11a)で、A の提案を受けて B が映画に行くという選択をしつつあったとしても、-ㄷ까 보다는使用は自然ではない⁵⁾。その理由は、-ㄷ까 보다는使用すると、映画に行くことを選択しつつあり、かつ、それを考えている最中であることを示すことになるからである。対面した A からの誘いや質問に対して、「映画に行く」「4月に会う」という考えに傾きつつあるならば、それを今、思考中であることを表す-ㄷ까 보다よりも、各(ㄴ)のように他の形式を使用するのが自然ではないだろうか。それに対し、(12)での-ㄷ까 보다는使用は自然である。(12a)は留学先を決めたのかと尋ねる A に、B は-ㄷ까 보다는使ってイギリスに行く方向で考えていることを述べるができる。-ㄷ까 보다는使用することによって、留学先としていくつかある選択肢の

中から、イギリスを選びつつあり、今なお、考え中であることを表している。(12b)はXの新刊が出ることを聞いたBが自分もその新刊を読んでみようかと思っていることを述べた例である。Xは話題の作家であるが、BはこれまでXの作品を読んだことがなかった。面白いという話は聞いていたので、新刊が出たのを機に一度、読んでみるという選択をしつつあり、考え中であることを述べるのに-ㄷ까 보다を使っている。

このように-ㄷ까 보다는、話し手がある行動を選択しつつあり、それを考え中であることを表すため、その選択に先立った行動が現れる場合には使用できない。

(13) 이거 영희한테 어울릴 거 같아서 사 왔어.

{a. ?영희한테 줄까 봐 / b. 내일 영희한테 줄까 봐}.

「これ、ヨンヒに似合いそうだから買ってきた。

{a. ヨンヒにあげようかと思って / b. 明日, ヨンヒにあげようかと思って}。」

(14) a. *영희한테 줄까 봐 사 왔어.

「ヨンヒにあげようかと思って買ってきた。」

b. *출출하니 뭐 먹을까 봐 냉장고를 열었다.

「お腹がすいたので何か食べようかと思って冷蔵庫を開けた。」

ヨンヒに似合いそうだから買ってきたということは、ヨンヒにあげる事が前提になるため、(13a)のように「ヨンヒにあげようかと思う」という内容に-ㄷ까 보다を使用することはできない。一方、(13b)はヨンヒに似合うと思って買ってきたものを明日渡すことを選択しつつあり、考え中であることを表しているため、-ㄷ까 보다가使用できる。(14)も(13a)と同様で、選択に先立つ行為がなされているため、-ㄷ까 보다가使用できない例である。(14)に示したように、意図を表す-ㄷ까 보다는文中に現れないことも特徴の一つである。

次に、-ㄷ까 보다と他の形式との共起について見てみよう。

(15) a. "이 포도나무는 솟제 없는 편이 낫겠어. 온통 벌레가 슬어서 다른 나무까지 퍼뜨려, 암만해도 뽑아 버려야 할까 봐." 포도나무가 눈에 뜨일 때마다 K 는 똑같은 말을 되풀이했고, 나는 그저 듣고만 있었다. (21 세종)

「“このぶどうの木はむしろない方がいい。ぜんぶ虫がわいて、他の木まで広まって、やっぱり引き抜いてしまわないといけないかと思う。”ぶどうの木が目に触れる度にKは同じ話を繰り返し、わたしはただ聞いていた。」

- b. 아무래도 저희 먼저 실례해알까 봅시다⁶⁾. 이 양반이 내일 아침 페닌슐라 호텔에서 열리는 나라를 위한 조찬 기도회 설교를 맡았거든요. (21 세종)

「やはり私たちは先に失礼しなければならぬかと思います。主人が明日の朝, ペニンシュラホテルで開かれる国のための朝食祈禱会の説教を引き受けたんです。」

(15)は-ㄷ가 보다가義務形式と共起した例である。(15a)は他の木にも虫が広がってしまうため,ぶどうの木を引き抜いてしまわないといけな思っていることを,(15b)は次の日に説教があるため,先に帰らなければならぬと思っていることを伝える際に-ㄷ가 보다가使われている。ぶどうの木を引き抜くかどうか,先に帰るか留まるかを話し手は選択しているが,義務形式を使うことで,状況に迫られてその選択をしつつあるという意味が現れる。意図を表す意味で使用された-ㄷ가 보다と義務形式との共起は46例中17例観察された⁷⁾。また,今回のデータでは(15b)のように-ㄷ가 보다가上称の終結語尾'-ㄷ니다'をとった例は1例のみ確認できた。

これまで終結語尾'-아', '-아요', '-ㄷ니다'をとった例を見てきた。次は下称の終結語尾'-다'をとった例である。

- (16) A: 어우 나 모자 써야 할까 보다. 얼굴 막 가렵다.

「ああ, わたし帽子をかぶらないといけな思う。やたら顔がかゆい。」

- B: 얼굴 가려운데 모자 쓰면은 괜찮아? (21 세종)

「顔がかゆいのに帽子をかぶれば大丈夫なの?」

(16)は口語における対話の例である。Aは顔がかゆく,人に見られないように,帽子をかぶろうかと思っていることを述べている。'-ㄷ가 봐'を使用する時よりも'-ㄷ가 보다'を使用した時の方が,言い放っている感があるが,Aが帽子をかぶることを選択しつつあることが読み取れ,義務形式と共起していることから必要に迫られていることが分かる。しかし, '-다'をとった例の中には,選択しつつあり,それを思考中であるという特徴が読み取れないものも見られる。

- (17) a. A: 요 녀석! 네 혀바닥은 어떻게 생겨 먹었기에 그다지도 고집 불통이나? 고놈의 혀바닥을 내밀어 보아라. 이 단 돌로 지질까 보다. (21 세종)

「こいつ!お前はどんな舌を持っていてそんなにまで強情なんだ。お前の舌を出してみろ。この熱い石で焼いてやろうか。」

B: 자요, 맘대로 하세요.

「さあ, ご自由におやりください。」

b. ... 어디다가 반말이야. 확- 죽여 버릴까 보다. (21 세종)

「... 誰に向かってぞんざいな言葉を。殺してやろうか。」

c. 취재의 예의라곤 눈곱만큼도 없는 방송국. 초상권 침해로 확 고소할까 보다. (21 세종)

「取材の礼儀なんてかけらもない放送局。肖像権の侵害で訴えてやろうか。」

(17a)は熱い石で舌を焼いてやる, (17b)は殺してやる, (17c)は訴えてやるという話し手の意図を表した例である。(17)の例はすべて, 話し手がある行動を選びつつ, それを考えている最中であることが読み取れない。(17a,b)は対面している聞き手に対して, (17c)は聞き手のいない場面での心内発話であるが, いずれも話し手の考えを言い放っているニュアンスが窺える。『연세 한국어사전』(1998)では-ㄴ까 보다の意味の1つに「話し手が自身の意志を強く表し, 脅迫したり脅したりする意味を表す」ことをあげており, (17)はこの意味に当たると言える。脅迫の意味を表すため, 述語には行為の受け手にいい影響を与えない語彙が使用されている。同辞書には「話し手が自身の意志を強く表し」と記されているが, (17)で見るように「必ず」や「きっと」に当たる副詞と共に起できないことから, 実現しようという強い意志を表すものではない。

(17) a. *이 단 돌로 {꼭 / 반드시} 지질까 보다.

「この熱い石で{きっと/必ず}焼いてやろうか。」

b. *{꼭 / 반드시} 확- 죽여 버릴까 보다.

「{きっと/必ず}殺してやろうか。」

c. *초상권 침해로 {꼭 / 반드시} 고소할까 보다.

「{きっと/必ず}肖像権の侵害で訴えてやろうか。」

強い意志が感じられるのは-ㄴ까 보다の意味的特徴ではなく, 終結語尾 '-다'が持つ機能によるものと考えられる。

(18) a. A1: 안 앞드리면 쏜다. 「伏せないと撃つ。」

B1: 그러니까 제가... 「だから私が...」

A2: 셋 셀 동안에 안 앞드리면 쏜다.

「3つ数える間に伏せないと撃つ。」 (타이라 2011:288)

b. A: 어, 왔어?... 오늘 시험 어땠어? 전교 5등 밖으로 떨어지면 가만 안 둔다.

「帰ってきたの?...今日の試験どうだった? 全校で5位以内から落ちたら, ただじゃおかない。」

B: (창피한 듯 웃고) 「(恥ずかしそうに笑い)」 (타이라 2011:289)

타이라(2011)では, 意志の表明に使用される‘-다’には, (18a)のように話し手が行おうとしている行動について, 聞き手がどう考えるかを考慮せず, 自分の意志を一方的, かつ宣言的に表明するという特徴があると述べている。また, ‘-다’を使った意志の表明は, 年下や同年代の親しい人に対して使用される。そのため, 場合によっては(18b)のように, 聞き手に言い聞かせたり, 圧力をかけたりするニュアンスを帯びることもあるとした。(17)の例に, 話し手がその行動を選択しつつあり, それを考えていることが読み取れないのは, 一方的, かつ宣言的に意志の表明をするという‘-다’の機能が影響していると考えられる。

次の例も話し手が行動を選択しつつあり, それを考え中であることが読み取りにくい。

- (19) a. 자동차 소리는 아침부터 여전히 들리지만 공장에서 들리는 쇠붙이 부딪는⁸⁾ 소리와 쇠를 두들기는 쇠망치 소리는 들렸다 그쳤다 했다. 나가 볼까 보다. 석남이는 공장 구경을 해야겠다 생각하고 벌떡 일어섰다. (21 세종)

「自動車の音は朝から変わらずに聞こえてくるが, 工場から聞こえる金属がぶつかる音と鉄をたたくハンマーの音は聞こえたり止まったりしていた。出かけようか。ソンナムは工場見学をしなければならないと考え, すっと立ち上がった。」

- b. 누렁이와 검둥이 — 상진은 얼핏 보기에 그 검둥이가 더 탐스럽게 생겼다는 생각이 들었습니다. 기운도 검둥이가 쉰까? 웬지 그것이 궁금해졌습니다. '세상에 똑같다는 건 없는 법이야. 어느 한쪽이 못할 게 당연한 일이니 어디 저 농부에게 물어볼까 보다.' 이런 생각을 하자 상진은 그냥 지나칠 수가 없었습니다.

「黄金と黒—尚震は, ちょっと見た感じでは, 黒の方がより魅力的な姿だと思いました。気も黒の方が強いかな。なぜかそれが気になりだしました。‘世の中に全く同じというものはないのが道理だ。片方が劣るのが当然だから, どれ, あの農夫に聞いてみようか。’こう考えると, 尚震はただ通り過ぎることができませんでした。」

(21 세종)

(19a),(19b)は「出かけよう」, 「農夫に聞いてみよう」という話し手の心内発話を表しているが, ここでは話し手がそれぞれの行動を選択しつつあり,

思考中であることが読み取りにくい。特に、感嘆詞‘어디’と共に起している(19b)は、尋ねるという行動の選択が決まりかけていると読み取れることでもできそうである。この理由について考えてみると、-ㄷ까 보다는「ある行動を選択しつつあり、それを思考中であることを述べる」という特徴が読み取れたのは、対話の場面で使用された例であった。それに対して(19)は心内発話である。本来、心内発話は聞き手に伝達される必要がなく、心内発話が言語化されるのは小説などにおいてである。(19)を見ると、情景描写や説明の中に突然、心内発話が出ており、その人物の感情や思考の過程が捉えにくい。そのため、話し手がある行動を選択しつつあり、それを思考中であることを述べるという特徴が把握しにくいのではないかと考えられる。対話で使用される-ㄷ까 보다と心内発話で使用される-ㄷ까 보다는関係性については今後、より詳しく考察する必要がある。

3.1.2. 推測を表すとされる-ㄷ까 보다

推測を表すとされる-ㄷ까 보다については、先行研究で見てきたように形式と意味が整理されていない。既存の研究では、文中に現れる場合が多く扱われてきたため、ここでは文末に現れる例を中心に考察し、文中・文末に共通して見られる特徴を探る。

(20) A: 최종적으로 도로 주행 마친 그 관할에서 나오니까.

「最終的に道路走行を終えたその管轄で出るから。」

B: 그래? 「そうなの?」

A: 응. 물론 그 얘기를 들을까 봐 뭐~ 애들 ‘아:: 전북 면허다’ 이런 얘기를 들을까 봐. 나하구 내 친구 며칠 써서 ‘아 그럼 우리도로 주행을 서울에서 보자.’ 그래 가지구 도로 주행을 서울에 와서 보구. 당당히 서울 면허증을 받았지. (21 세종)

「うん、もちろんそういう話を耳にするかと思って、友達から‘あ、全北の免許だ’ こういう話を耳にするかと思って。僕と僕の友達が頭を使って、‘あ、だったら俺たち道路走行をソウルで受けよう。’ そうして道路走行をソウルに来て受けて。堂々とソウルの免許証をもらってきた。」

(20)は友人同士の対話であり、‘-ㄷ까 봐’が文末に現れた例である。‘들을까 봐’の主語は話し手で、意志動詞である‘듣다’と共に起しているが、(20)の話し手は、道路走行の試験を受けた場所で運転免許が発行されることを説明しながら、「全北の免許だという話を耳にするかと思って」と述べており、推測を表している。主語が1人称で意志動詞をとった場合、-ㄷ까 보다가意図を表すのか、推測を表すのかは文脈によって判断される。

변정민(2008)의指摘にもあるように, 主語や話し手が 2 人称, 3 人称の場合には推測の意味のみが現れる。

(21) a. A: 솔직히 말하자면... 억울할 정도로 기다렸어. 하지만 이미 지난 일인데 뭐.

「正直言って...悔しいほど待っていた。けどもう過ぎたことだし。」

B: 왜 한번도 묻지 않았어? 궁금하지 않았어?

「どうして一度も聞かなかったの? 気にならなかったの?」

A: 네가 그날을 기억하지 못할까 봐. 그리고 나중에 시간이 되면 자연스럽게 알게 될 거라고 생각했어. (21 세종)

「あなたがあの日のことを覚えていないかと思って。それに後で時間が経てば自然に知ることになるだろうと思っていた。」

b. 그리고 오히려 제 방 가면 사진이 없어요. 그 이유가 사진이 날 보는 것 같아서 너무 창피한 거예요. 그래서 항상 연기 연습할 때는 아무도 없어야 되고 말도 작게 해요. 식구들이 들을까 봐. (21 세종)

「それにむしろ, 自分の部屋に行くと写真がありません。その理由は写真がわたしを見ているようでとても恥ずかしいんです。それでいつも演技の練習をする時には誰もいてはならず, ことばも小さくします。家族が聞くかと思って(家族に聞こえるかと思って)。」

(21a)는 2 人称主語, (21b)는 3 人称主語의例である。(21a)는, なぜ待っていたことを一度も話さなかったのかという質問に対して, B가覚えていないと思っていたことを, (21b)는演技の練習が家族に聞こえるかもしれないと思っていることを-ㄷ까 보다を使って述べている。(20),(21)によって '-ㄷ까 봐'の形が文末に生起することが確認できる。次は, '-ㄷ까 봐요'の例である。

(22) a. A: 왜 인터뷰를 피했어요? 전화도 안 받고.

「なぜインタビューを避けたんですか。電話も出ずに。」

B: 훈련에 방해받을까 봐요. 더 이상 그 얘기 하고 싶지 않아서요.

「訓練に邪魔になるかと思っています。これ以上, あの話をしたくなくてです。」 (21 세종)

b. 운수가 좋았지요. 다리뼈가 좀 잘못돼서 그것 때문에 여러 날 병원에서 묵어야 할까 봐요. 나는 용정에 가야 하니까 아지매를 오시라 했지요. 장사를 못해서 미안하지만요. (21 세종)

「運がよかったです。脚の骨が少しおかしくなってそのために何日か病院に泊まらなければならないようです。わたしは龍井に行かなければならないのでおばさんに来てくださるように言いました。商いができなくてすまないのですが。」

- c. 아무래도 수상해요. 요즘 와선 거의 서하총만 살피는걸요. 결국은 아마 들통이 날까 봐요. (21 세종)

「いずれにしても怪しいです。最近になって、ほとんど西下塚だけを調べているんですもの。結局は多分ばれそうですよ。」

(22a)は、なぜインタビューを避け、電話も取らなかったのかという質問に答える場面、(22b)は脚の骨を痛めてしまった第三者が病院に泊まらなければならないようだと言き手に説明している場面、(22c)は西下塚の秘密について、いずれはばれると思っていることを述べている場面であるが、(22b,c)の-ㄷ까 보다는使用については、韓国語母語話者の容認度が低い。

次は、'-ㄷ까 봅니다'の例である。

- (23) a. 허리를 안아 본다면 아마 모르면 몰라도, 한 아름답고도 받은 실히 될까 봅니다. 그런 데다가 키도 알맞게 다섯 자 아홉 치는 넉넉합니다. (21 세종)

「腰を抱きかかえてみるとすれば、おそらく十中八九、一抱えと半分には間違いなくなると思います。その上、背もふさわしく5尺9寸は十分あります。」

- b. 맞습니다. 우리의 민족 통일은 문명 전환의 최대 고조기와 일치될 것으로 보입니다. ...그리하여 시장이 생명 가치를 지향하기 시작할 때 통일 정세도 성숙하지 않을까 봅니다. 진정한 통일이 되기 위해서는 말이지요. (21 세종)

「その通りです。我々の民族統一は文明転換の最大の高潮期と一致すると思います。...そのため、市場が生命価値を志向し始める時に統一情勢も成熟するのではないかと思います。真正な統一になるためにということです。」

(23a)は「間違いなく一抱えと半分にはなると思う」、(23b)は「成熟するのではないかと思う」という推測を述べた例である。この'-ㄷ까 봅니다'を'-ㄷ까 봐요'に置き換えることはできない。'-ㄷ까 봅니다'の例は上に示した2例しか抽出できず、(23b)については不自然であるという韓国語母語話者の意見や(23a)と(23b)の-ㄷ까 보다는性格が異なるものであるという意見⁹⁾もあった。なお、今回のデータでは終結語尾'-다'を伴った形式で推測を表した例は確認できず、호광수(2003)の指摘と合う結果となった。

さて、これまで-ㄷ까 보다가文末に生起する例を見てきたが、なぜ(22b), (22c), (23b)は容認度が低いのか。(20),(21)を使って考えてみる。この例は終止形で実現しているが、前後の文脈から次のように解釈できる。

(20) 전북 면허다, 이런 얘기를 들을까 봐 도로 주행을 서울에서 왔어.

(21) a. 기억하지 못할까 봐 묻지 않았다.

b. 식구들이 들을까 봐 말도 작게 해요.

(20)は(20')のように、‘全北の免許だ’という話を耳にするかと思ったためにソウルで道路走行の試験を受けたことを、(21a)は(21'a)のように、あなたがその日のことを覚えていないかと思ったために相手に尋ねなかったことを、そして、(21b)は(21'b)のように、家族に聞かれるかと思ったために小声で練習することを表し、すべて倒置で解釈できる。そして、-ㄷ까 보다가表される内容は単なる推測ではなく「ソウルで試験を受けた」、「尋ねなかった」、「小声で練習する」という行動の理由となっていることが分かる。推測を表すとされる-ㄷ 것 같다と比較してみると、-ㄷ까 보다가単に推測を表す形式でないことがより明らかになる。

(24) a. A: 영화한테는 이거 언제? 「ヨンヒにはこれどう?」

B: *안 어울릴까 봐.

cf. 안 어울릴 것 같아.

「似合わないと思って。」

b. (窓を見ながら)?비가 올까 봐.

cf. 비가 올 것 같아.

「雨が降るかと思って。」

「推測」を表すと言うと(24)のような場面も考えられるが、この状況で-ㄷ까 보다가の使用は不自然であり、例えば、なぜ買ってこなかったのか、なぜ傘を持ってきたのかという質問に対して、その理由を述べる場合であれば-ㄷ까 보다가使用できる。このように考えると、先に見た(22a)は、なぜインタビューを受けなかったのかという質問に対して理由を述べているため-ㄷ까 보다가の使用が自然であるのに対し、(22b,c)及び(23b)は、何かの理由について述べているものではないため、不自然になると説明できる。‘-ㄷ니다’をとり、単なる推測を表す(23a)が容認される理由については、例文の数が少ないため明らかではないが、‘-ㄷ까 봐요’に置き換えが不可能なことから考えると、限定的な使用と見ることができよう。

次に、‘-ㄷ까 봐’が固定化した形であるという指摘について考えたい。既存の研究では、‘-ㄷ까 봐’が固定化して現れることを説明するために、文中に生起する例をあげてきたが、文中での使用よりも、‘-ㄷ까 봐’が固定化された形であることをより端的に示してくれるのが次の例である。

(25) a. 그의 방 안에서 자신이 차지하는 면적을 최대한 줄이려고 한다.
방 안을 해매고 다닐 익명의 체크인리스트들과 몸이 {ㄱ. 부딪칠까 봐 / ㄴ. *부딪칠까 보다}. 그는 그 자세 그대로 꼬박 날을 밝힌다.

「彼の部屋の中で自身が占める面積を最大限小さくしようとする。部屋の中をうろつく匿名のチェックリストと身体がぶつかるかと思って。彼はその姿勢のままで夜を明かす。」 (ㄱのみ 21 세종)

b. 이걸 오늘 새벽까지도 확인해 봤습니다. 혹시 {ㄱ. 틀린 정보가 될까 봐 / ㄴ. *틀린 정보가 될까 봅니다}, 자~ 그래서어~ 일단 그~ 도메인 명칭을 좀 더 친숙하고 어~ 대표성을 띤 것으로 해야 될 것이다라는 그러한 지적을 제가 요번에 여행하면서 많이 아~ 들었습니다. (ㄱのみ 21 세종)

「これは今日の明け方まで確認しました。もしかして間違った情報になるかと思って。さて、それで、まずそのドメインの名称をより親しみがあ、代表性を帯びたものにしなければならないというそういう指摘を私は今回旅行をしながらたくさん聞きました。」

(25a)는 心内發話의 例, (25b)는 워크숍에서의 發表者의 發話의 例である. ‘-ㄷ까 봐’가 現れた 前後의 文을 見ると, (25a)는 下稱의 終結語尾 ‘-다’를 取った 文が, (25b)는 上稱의 終結語尾 ‘-ㄷ니다’를 取った 文が 生起しているが, 各(ㄴ)のように ‘-ㄷ까 보다’や ‘-ㄷ까 봅니다’に 置き換える ことは できない. 下稱が 使用された 書きことばの 中に 半言が 現れたり, 不特定多数を 対象とした 講演で, 上稱で 話している 途中に 半言が 現れたり することは 一般的ではない. つまり, (25)의 ‘-ㄷ까 봐’は 半言形で 文末に 生起している ものの 終止形ではなく, 倒置で 解釈される べき 接続形である. そして, この 例も -ㄷ까 보다で 示された 内容が 「自分が 占める 面積を 小さく しよう と すること」, 「明け方まで 確認した こと」の 理由 となっている. 推測を 表す 場合に ‘-ㄷ까 봐’という 形が 多く 現れる のは, -ㄷ까 보다で 表された 推測が 後に 続く 行動の 理由 となる ために, 接続形で 多く 実現すると 説明 できる.

叙述形の 最後に, -ㄷ까 보다의 意味として 「心配」を 別に 立てる べきか について 考えて みる. ‘-ㄷ까 봐’가 文中に 使用された 428 例のうち, (26a)のように 後に 걱정하다(걱정이다), 불안하다, 겁나다, 두렵다 といった 述語が 続く 例が 161 例 見られた. また, その ような 述語が なくても 心配や 不安が 含意 されている 例(26b)も 見られた.

(26) a. 혹 충격이라도 받을까 봐 걱정이예요. (21 세종)

「もしかして ショックでも 受ける のではないか と思って 心配 です。」

b. 학과 공부 특성상 영문 타자 기술이 반드시 필요했지만 타이프를 훌륭히 치게 되면 타이피스트가 될까 봐 두 손을 묶고 있었다.

「学科の勉強の特性上、英文のタイピング技術は必ず必要だったが、タイピングをうまくできるようになるとタイピストになるかと思い、両手を縛っていた。」 (21 세종)

(26a)は「(子供が)ショックを受けるかと思って」という内容が理由となつて、その後に「心配だ」という話し手の心情が現れている。(26b)は「タイピストになるかと思い」の後に、両手を縛っていたという内容が続いていることから、タイピストになってしまう不安が含意されている。しかし、心配や不安を表していない例も見られた。

(27) a. 나는 어제 아침을 먹고 아버지가 나에게 돈을 줄까 봐 피병을 부렸다. (21 세종)

「わたしは昨日、朝ご飯を食べた後、父がわたしにお金をくれるかと思って仮病を使った。

b. ...혹 그녀가 자기 생일날까지는 돌아와 줄까 봐 기다리며 자기 생일이 유통 기한인 파인애플 통조림을 사 모으다가 결국 돌아오지 않자 다 먹어치우는 남자들이 있다. (21 세종)

「...もしかして彼女が自分の誕生日までには戻ってきてくれるかと思ひ、待ちながら、自分の誕生日が賞味期限のパイナップルの缶詰めを買い集めて、結局戻ってこない、全部食べてしまうという男性たちがいる。」

(27)は「お金をくれるかと思って仮病を使った」、「誕生日までには戻ってくるのではないかと思って待っている」という内容であり、心配や不安は窺えない。-ㄷ까 보다の使用に、心配や不安を伴う内容が多いことはデータ数からも裏付けられるが、心配や不安を伴わない例が確認できる以上、それを-ㄷ까 보다の固有の意味として付すのは適当ではないと考える。

文中・文末を問わず、これまで見てきた-ㄷ까 보다の例に一貫して見られた特徴は、-ㄷ까 보다で表された推測が、その後の行動や心情の理由となる点である。反対に、-ㄷ까 보다を使用しながらも、韓国語母語話者の間で容認度が低かった例は、その内容が理由となっていない例であった。このことから-ㄷ까 보다는、推測した内容が理由となり、その推測によってある行動がなされたことや、ある心情が生じたことが結果として存在する場合に使用されると言うことができる。

3.2. 疑問形の-ㄷ까 보다

疑問形-ㄷ까 보다の用例を検討する前に、この形式が相手の意図を尋ねる際には使用できないことを確認しておく。

- (28) a. 나 휴학할까 봐. 「わたし, 休学しようかと思つて。」
 b. *너 휴학할까 봐? 「あなた, 休学しようかと思つているの?」
- (29) a. 집에 { 가려고 / 갈 거야 / 가게 }. 「家に帰る。」¹⁰⁾
 b. 너 집에 { 가려고 / 갈 거야 / 가게 }? 「あなた, 家に帰るの?」

3.1.1.で見てきたように, 意図を表す叙述形の-ㄷ까 보다는, 話し手がある行動を選択しつつあることを表すが, 疑問形の-ㄷ까 보다によって, そのような意図があることを聞き手に問うことはできない(例文 28b)。他の意図や意志を表す形式は(29)のように, 叙述形で話し手の意図や意志を表し, 疑問形で聞き手の意図や意志を問うことができる。終結語尾‘-ㄷ게’のように疑問形を持たない形式も存在はするが, -ㄷ까 보다は疑問形が存在するにもかかわらず, その意味は意図とは無関係である。

では, 疑問形の-ㄷ까 보다は고광모(2015)での指摘通り, 修辭疑問文としてのみ機能するのだろうか。

- (30) a. 자신에겐들 작은 이별이 없었을까. 있었다. 이모네로 백이십 리 길 고용살이 유학을 떠날 때, 어머니는 눈물 바람을 보였다. 누나도 마찬가지로였다. 유학이라는 게 그렇다. 동경 유학이나 서울 유학만이 유학일까 보냐. (21 세종)
 「自分にだって小さな別れがなかつただろうか。あつた。お婆の家に 48 kmの奉公留学に発つ時, 母は涙を見せた。姉も同じだった。留学とはそういうものだ。東京留学やソウル留学だけが留学だろうか。」
- b. 사실상 추석은 왕이든 정승이든 양반 선비든, 그 아래 농민이나 천민이든, 사농공상(士農工商)을 가릴 것이 없는 큰 명절이다. 하늘에 있는 한가위 보름달이 어찌 땅 위에 있는 사람을 차별할까 보냐? 달빛은 평등 그것이 아니던가? (21 세종)
 「事實上, 秋夕は王だろうが大臣だろうが, 両班学者だろうが, その下の農民や賤民だろうが, 士農工商を分け隔てることのない大きな民族的祝祭日である。天にある中秋の満月がどうして地上にいる人を差別するだろうか。月の光は平等そのものではなかつたか。」

(30)は終結語尾‘-ㄷ’をとった例である。(30a)は留学についての内容であり, 東京やソウルへの留学だけが留学かと述べる際に, (30b)は, 秋夕は身分に関係のない民族的祝祭日であるとし, どうして中秋の満月が人を差別することがあるかと述べる際に‘-ㄷ까 보냐’が使われている。この‘-ㄷ까 보냐’は聞き手に答えを求めない修辭疑問文であり, 反語である。特に(30b)は, ‘어찌’と共に起していることから反語であることがよく分かる例である。修

辞疑問文について, 남기심·고영근(2011)は, 形態は疑問文でありながら, 意味上では疑問文ではない疑問文を修辞疑問文とし, 反語疑問文の例と感嘆疑問文の例をあげている¹¹⁾。今回のデータで‘-ㄴ까 보냐’は 27 例抽出され, 全て反語として解釈されるものであった。次は中称の終結語尾‘-오’をとった例である。

- (31) "옛 사람의 말에 못사람의 입질은 쇠도 녹인다고 했는데, 이제 바닷속의 한 축생이 어찌 못사람의 입질을 두려워하지 않을까 보오."
 境内(境內)의 백성들을 모아들여 노래를 지어 부르며 막대기로 바닷물을 치노라면 부인을 찾을 수 있으리라. (21 세종)
 「昔の人のことばで, 多くの人の口は鉄をも溶かすと言ったのだが, もはや海の中の一匹の生き物がどうして多くの人の口を恐れないだろうか。」境内の人々を集めて歌を作って歌い, 棒で海水を打ち続けたら夫人を取り戻すことができるであろう。」

今回のデータでは, ‘-오’と共に起した例は(31)の 1 例のみであった。この例も‘어찌’が使用されており, 内容からも反語の例と分かる。終結語尾‘-냐’, ‘-오’をとった場合は反語として解釈されるが, 次に見る‘-아’, ‘-아요’をとった場合には違った意味が現れる。

- (32) a. A: 남자가 혹시 종손(宗孫)은 아닌가요? 종손이라면 더욱 불리해요?
 「男性はもしかして宗孫ではないですか。宗孫であればもっと不利ですか。」
 B: 종손은 아니지만 아마 장남일걸. 왜, 시집살이가 고단할까 봐?
 「宗孫ではないけれど, 多分長男だと思うよ。どうして? 嫁に行ってからの暮らしが大変だと思っているの?」 (21 세종)
 b. A: ... 집을 며칠씩이나 비우는데 그걸 열어 놓고 갔잖니.
 「... 家を何日も空けるのに, それを開けたまま行かないわよ。」
 B: 왜요? 그리로 도둑이 들어갈까 봐요?
 「どうしてですか。そこから泥棒が入るかと思っていますか。」
 A: 그럼. 「そうよ。」 (21 세종)

(32a)は‘-ㄴ까 봐’の例であり, 見合い相手は宗孫なのかという A の質問に B が答えた後, A に対して「嫁に行ってからの暮らしが大変だと思っているのか」と尋ねている。(32b)は‘-ㄴ까 봐요’の例であり, 第三者について話している。第三者が何日も家を空けるのに, 開けたままで行くはずがないと話す A に対し, B が「どうしてか。泥棒が入ると思っているのか」と尋ねている。(32)は 2 例とも修辞疑問文ではなく, 相手の直前の発言や第三者の行動

に対して理由を尋ねている。また、疑問詞‘왜’が「なぜ、そのようなことを聞くのか」, 「なぜ、そのような行動を取ったのか」という内容を含んで使用されている。文末だけでなく文中に‘-ㄴ까 ㅂ’が生起した疑問文でも同じように理由を推測して聞き手に尋ねている。

- (33) a. ... 그런데 웬일이야? 밖에서 이십 분씩이나 떨면서 날 기다리는 건 평소의 조세희답지 않은데? 너 혹시 내가 자살이라도 했을까 봐 보러 온 거 아냐? (21 세종)

「...ところでどうしたんだ? 外で 20 分も震えながら俺を待っているのは、いつものチョセヒらしくないんだけど。おまえ、もしかして俺が自殺でもしたかと思って見に来たんじゃないのか?」

- b. 내가 중국어로 "내가 당신한테 어디 사람이라고 가르쳐 줄 필요도 없다."고 화를 내면서 "너는 내가 그까짓 빵값을 안 줄까 봐 소릴 질렀느냐?" 하며 외국인만이 사용할 수 있는 중국 돈인 '와이후이첸'을 주니 태도가 수그러지고 당황해했다.

「わたしが中国語で“わたしがあなたにどこの人だと教える必要もない”と怒りながら, “あんたはわたしがそれしきのパン代を払わないかと思って声を張り上げたのか?”と言い, 外国人だけが使える中国のお金である ‘ワイフイチェン’をやると態度が和らぎ, うろたえた。」 (21 세종)

(33)は文中に‘-ㄴ까 ㅂ’が生起した疑問文である。「見に来た」, 「声を張り上げた」という聞き手の行動を受けて, そのように行動した理由を「(話し手が)自殺した」, 「(話し手が)パン代を払わない」と聞き手が推測したためではないかと尋ねている。推測を表す叙述形-ㄴ까 보다の特徴として, -ㄴ까 보다で表された内容が, その後の行動や心情の理由となることを指摘した。疑問形‘-ㄴ까 ㅂ(요)’と疑問文の中で使用される‘-ㄴ까 ㅂ’は, 相手の言動を受けて, その言動の理由を話し手が推測し, その推測内容を尋ねる際に使用されている。推測した内容が理由となっている点で叙述形と共通している。

‘-ㄴ까 ㅂ(요)’が修辭疑問文(反語)として使用された例も見られた。

- (34) a. A: (의아) 어디서 났어요? 그 라디오는?

「(訝しそうに) どうしたんですか? そのラジオは?」

- B: 왜? 내가 어디서 훔치기라도 했을까 봐?

「どうして?俺がどこかで盗みでも働いたと思っているの?」

- A: 어디서 주웠냐구요?

(21 세종)

「どこで拾ったんですかって。」

- b. A: "아기 이름은 필로 하지?" 「“子供の名前, 何にしよう?”」
 B: "내가 지어 왔어." 「“僕がつけてきた。”」
 A: "정말?" 수혜의 얼굴이 환하게 밝아졌다.
 「“本当?”」 스への顔がぱっと明るくなった。
 B: "시 쓰는 아빠가 자기 자식 이름 하나 못 지을까 봐?"
 「“詩を書くお父さんが自分の子どもの名前ひとつつけられない
と思っているの?”」 (21 세종)

(34)의 「盜む」, 「名前をつけられない」の主体は話し手であり, 話し手自身の行動や能力について聞き手の判断を尋ねている。「盗んできたと思っているのか」, 「名前をつけられないと思っているのか」と質問しながらもそれに対する答えを求めているわけではなく, 「盗んでくるわけがない」, 「名前ぐらいはつけられる」という反語で解釈できる。(34)の例では, 話し手の行動や能力を最も知り得るのは話し手であり, 聞き手にそれを問う必要がないため, 修辭疑問文としての解釈が可能になると考えられる。

今回のデータでは‘-ㄴ까 ㅂ니까?’の例は見られなかったが, インターネットで検索したところ, 次のような例が見られた。

- (35) a. 아이들이 언제까지 해라! 해서 하는 공부를 할까 ㅂ니까??
 「子どもたちがいつまで やれ! と言って(言われて)やる勉強をすると思えますか。」 (http://blog.naver.com/asktoi/90013567397)

- b. 애니 덕후는 덕밍 아웃을 하는데!! 수학 덕후나 과학 덕후라고 덕밍 아웃을 못 할까 ㅂ니까!!
 「アニメオタクはカミングアウトするのに!!数学オタクや化学オタクだからと言って, カミングアウトできないと思えますか。」
 (https://www.facebook.com/206910909512230/posts/464007583802560)

(35a)は誰かにやれと言われてやるような勉強を子供たちがいつまでやると思うかと尋ねているが, 実際には, そんな方法では勉強しないという意味である。(35b)はアニメオタクだけでなく, 数学や化学のオタクであってもカミングアウトできるという意味で使用されている。‘-ㄴ까 ㅂ니까?’の例が非常に少なかったため, 修辭疑問文のみで使用されるのかは明らかではない。しかし, ‘-ㄴ까 ㅂ니까?’の例が仮に修辭疑問文のみで使用されるのであれば, その数が少ない理由は考えられる。上称形である‘-ㄴ니까?’は, 格式を整える必要がある場面や, 距離感を保つ必要のある聞き手に対して使用される。そのような状況や関係で, 疑問形式を取りながら聞き手に答えを求めない修

辞疑問文を使用するのは、礼儀上ふさわしくない。このことが使用が少ない理由として考えられる。

以上、疑問形の-ㄷㅓ ㅂㅓは修辞疑問文として反語で解釈される例だけでなく、聞き手や第三者の言動を受けて、それに対する理由を推測して質問する場合にも使用されることが分かった。

4. おわりに

本研究では「意図」と「推測」を表すとされる-ㄷㅓ ㅂㅓを取りあげ、その意味的特徴を考察してきた。

意図を表す場合には、話し手がある行動を選択しつつ、それを思考中であることを述べる際に-ㄷㅓ ㅂㅓが使用されることを見てきた。その一方で、終結語尾‘-ㄷ’をとり、脅迫を表したり、心内発話に使用される場合には、上記の特徴が読み取れないことを確認した。脅迫を表す場合には-ㄷㅓ ㅂㅓに強い意志を表す意味があると言うよりも、‘-ㄷ’が有している意志表明の機能が影響していることを指摘した。また、心内発話で用いられた-ㄷㅓ ㅂㅓの場合、本来、心内発話は聞き手へ伝達する必要がなく、小説において情景描写や説明の中に突然現れるため、話し手の感情や思考の過程が捉えにくいのではないかと考えた。この点についてはより詳しい考察が必要である。推測を表すとされてきた-ㄷㅓ ㅂㅓについては、-ㄷㅓ ㅂㅓで表された推測が、その後の行動や心情の理由となる点を指摘した。この特徴は文中・文末の生起位置にかかわらず見られるものである。‘-ㄷㅓ ㅂㅓ’が固定化した形で多く現れるのもこの特徴と関係しており、‘-ㄷㅓ ㅂㅓ’が文末に生起していても実際には倒置であり、接続形として使用されているためである。

さらに、修辞疑問文として解釈されることが指摘されてきた-ㄷㅓ ㅂㅓの疑問形について考察した。その結果、修辞疑問文として反語で解釈される例だけでなく、聞き手や第三者の言動を受けて、その言動の理由を話し手が推測し、その推測内容を相手に質問する場合にも使用されることが分かった。

朝鮮語には意図と推測を表す形式が多数存在する。本研究で扱った-ㄷㅓ ㅂㅓの推測は「～とあって」という主体の思考を表出したものである。用語の問題も含めて、「推測」を細かに分類していくことによって各形式の特徴が明らかになると考える。また、意図と推測の関連性についても調べる必要がある。これらは今後の課題とする。

《謝辞》

本稿の修正にあたり、査読をしてくださった方から大変貴重なご指摘をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

《註》

- 1) 호광수(2003)があげた(1)の例は『조선말 대사전』(1992)からの例である。
- 2) -ㄴ까 보다가疑問形で使用されることについて『コスモス朝和辞典』(1991), 『朝鮮語辞典』(1993), 『연세 한국어사전』(1998), 국립국어원(2005), 백봉자(2006), 『표준 국어대사전(電子版)』には記載がなかったが, 『우리말 큰사전』(1995), 『고려대학교 한국어사전』(2009)には記載されている。『우리말 큰사전』(1995)には‘-ㄴ까 보다’の形で記載があり, 「-ㄴ까 보다の疑問形として①相手の推測を尋ねる意味を表す, ②相手の意志を尋ねながら, 一方ではそのようにするはずがないことを表す。」と説明されている。『고려대학교 한국어사전』(2009)でも, ‘-ㄴ까 보다’の形で記載されており, 「そのようにはならないことを表す」と説明されている。
- 3) 「意志」とは何かをしようということよりも何かを成し遂げることに重きがある。-ㄴ까 보다는, 話し手がある行動をするという考えに傾きつつあることを表し, ある行動を成し遂げようという意味を含まない。そのため本稿では「意志」ではなく「意図」を使う。
- 4) 平(2015)は文末に使用される‘-려고’が発話時点で既に行うことが決まっている意図を表すとしている。(9b)ではチュホの話聞いた主婦が‘참 그렇긴 해’と発話していることから分かるように, 主婦がチュホの話に同意し, 靴を磨くことを選択しつつある状況である。この文で-ㄴ까 보다가‘-려고’に置き換えると, 聞き手の意見に同意を表す‘참 그렇긴 해’と既に決まった意図を表す‘-려고’がともに現れるため不自然となる。この置き換えが不自然になることも-ㄴ까 보다가不確定な意図を表し, ‘-려고’が既に決まった意図を表すことを示している。
- 5) (11)の-ㄴ까 보다가使用した(ㄱ)の容認度については韓国語母語話者の間で意見が分かれた。話し手が, 選択肢の中から一つを選びつつあり, それを今, 思考中であることを示すことが可能かどうかに関わってくる。敢えて, 思考中であることを表す必要がないのであれば, (ㄴ)のようにもう一度, 聞き手に提案する形を取るなど, -ㄴ까 보다以外の他の形式を取ると考える。
- 6) 原文のまま引用した。本来であれば, 아무래도 저희 먼저 실례해야 할까 봅니다.と表記されるべきものである。
- 7) 고광모(2015)でも義務形式がよく見られることを指摘しているが, その意味については論じていない。
- 8) 原文に綴りの間違い(부디다)があったため修正(부딛다)した。
- 9) 査読者から, (23b)は성숙하지 않을까 이렇게 봅니다.という構成が可能であり, 보다가 생각하다가置き換えることができるため, (23a)と(23b)は性格の異なるものと捉えられるのではないかという指摘があった。
- 10) 形態, 形式によって意図・意志の意味が異なるため, 本来ならば日本語訳も変えなければならぬのだが, 便宜上, 区別せずに「帰る」で統一した。
- 11) a. 인수가 온다면 얼마나 좋을까?
b. 내가 너한테 집 한 채 못 사 주랴? (남기심·고영근 2011:360)
남기심·고영근(2011)では, (a)を感嘆疑問文, (b)を反語疑問文とし, (b)で使用されている-랴が修辭疑問文でよく使用されるとしている。これ以外にも-게, -다니, -더담을修辭疑問文に使用される語尾としてあげている。

《参考文献》

- 菅野裕臣 他(1991)『コスモス朝和辞典 第2版』白水社.
- 平香織(2015)「現代朝鮮語の‘-lyeko (hata)’に関する一考察 -日本語の「～ようと(する)」との相違を中心に-」『日本言語学会第150回大会予稿集』p.56-p.61, 日本言語学会.
- 油谷幸利 他(1993)『朝鮮語辞典』小学館.
- 고광모(2015)「추측을 나타내는 ‘-은가 보-, -은가비-, -은감-’과 보조형용사 구문 ‘-을까 보-’의 발달」『언어학』73, p.3-p.33, 사단법인 한국언어학회.

- 고려대학교 민족문화연구원 국어사전편찬실(2009) 『고려대 한국어대사전』 고려대학교 민족문화연구원.
- 국립국어원(2005) 『외국인을 위한 한국어문법 2-용법편』 커뮤니케이션북스.
- 국립국어원 『표준국어대사전』 (電子版)
- 남기심·고영근(2011) 『표준국어문법론 제 3 판』 탑출판사.
- 박재연(1999) 「종결어미와 보조용언의 통합 구문에 대한 재검토」 『관악어문연구』 24, p.155-p.182, 서울대학교 국어국문학과.
- 백봉자(2006) 『외국어로서의 한국어 문법사전』 하우.
- 변정민(2008) 「의문형 어미와 통합하는 보조용언 연구 -"보-"와 "싶-"을 중심으로-」 『한국어학』 40, p.223-p.249, 한국어학회.
- 엄정호(1990) 「終結語尾와 補助動詞의 統合構文에 대한 研究」 成均館大學校大學院 博士學位論文
- 연세대학교 언어정보개발연구원 편(1998) 『연세 한국어사전』 두산동아.
- 정혜선(2010) 「종결어미와 통합하는 ‘보다’ 구문에 대하여 - ‘-ㄴ가 보다’, ‘-ㄴ까 보다’ 를 중심으로」 『國語學』 59, p.45-p.66, 국어학회.
- 타이라 카오리(2011) 「입말에 나타난 "-다"의 담화적 기능에 관하여」 『한국어학』 52, p.273-p.294, 한국어학회.
- 한글학회(1995) 『우리말 큰사전』 어문각.
- 호광수(2003) 『국어 보조용언 구성 연구』 역락.

‘-르까 보다’의 의미적 특징에 관한 일고찰

타이라 카오리
간다외어대학

본 연구는 선행연구에서 의도와 추측을 나타낸다고 지적되어 온 ‘-르까 보다’의 의미적 특징을 재고(再考)하는 데 목적이 있다.

의도를 나타내는 ‘-르까 보다’가 확정되지 않은 화자의 의도를 나타내는 것은 분명하나 그것만으로는 ‘-르까 보다’의 쓰임을 설명할 수 없다. 용례를 분석한 결과, 의도를 나타내는 ‘-르까 보다’는 선택 가능한 행동이 두 개 이상 존재하는 상황에서 화자가 그 중 어떤 행동을 선택할지 생각하고 있음을 나타낼 때 사용됨을 확인할 수 있었다. ‘-르까 보다’가 강한 의지를 드러내면서 협박의 의미를 나타낸다는 선행연구가 있는데 이것은 ‘-르까 보다’의 특징이라기보다는 의지 표명을 나타내는 ‘-다’의 특징에 의한 것이라고 여겨진다. 또한 ‘-르까 보다’가 나타내는 추측은 주체의 행동이나 심정의 이유가 된다는 것을 지적하였는데 이 특징은 ‘-르까 보다’가 문장 안에 나타날 때뿐만 아니라 문말에 나타날 때도 확인되었다. ‘-르까 봐’가 흔히 고정된 형식으로 나타나는 이유도 이 특징과 관련이 있다고 여겨진다. ‘-르까 봐’가 문말에 나타난다 하더라도 실제로는 도치로 해석되어 접속형으로 사용된다고 할 수 있기 때문이다. 그리고 ‘-르까 보다’의 의문형은 수사 의문문 이외에 청자나 제삼자의 발화나 행동에 대해 화자가 그 행위의 이유를 추측하여 그 내용을 청자에게 확인하는 경우에도 사용됨을 밝혔다.

본 연구에서 다룬 ‘-르까 보다’의 추측은 일본어의 「～思って」가 나타내는 ‘주체의 사고(思考)’와 유사하다고 여겨진다. 조선어에는 추측을 나타내는 형식이 다수 존재하기 때문에 추측의 종류에 따라서 사용하는 용어를 달리할 필요가 있다. 또한 동일한 형태로 의도와 추측을 나타내는 경우가 있으므로 그 연관성에 관해서도 고찰해야 할 것이다. 이는 향후 과제로 삼기로 하겠다.